

## 祖父とのあたたかい時間

恒成里南

「りなはむじいもんじゃ」

むじいとは、かわいいという意味で、宮崎県の方言です。

祖父がわたしによく言ってくれる言葉です。

わたしは祖父の「むじい」を聞くたびに、なんだかかくすぐったいような、そわそわするような、ふわふわした気持ちになつて、ついニヤニヤしてしまいます。

祖父は七十さいを過ぎていますが、この春までバリバリはたらいしていました。わたしが長期休みで宮崎に帰省しているとき、朝早くからビシッとワイシャツを着て、朝ごはんをモリモリ食べて、さっそうと車にのって出かけるすがたはかっこよかったです。

夕方、祖父が帰ってきた車の音が聞こえるとうれしくて、げんかんまで走っておむかえにいくのが日課でした。祖父の手には、わたしの好物のイチゴなどが入ったふくろがにぎられていました。わたしの好物を知ってくれていることも、外出先でわたしのことを考えてくれていることもうれしかったです。

休みの日はたくさん遊んでくれます。春や冬はあちこちの公園につれて行ってくれて、夏は海でいっしょに泳いでくれます。祖父と手をつないで、きれいな海で波にゆられてプカプカとかんでいるのはしあわせです。

そしてなによりもわたしが好きな時間は、庭のテラスで祖

父とごはんを食べるひとときです。夕方のすずしい風にふかれながら、祖父はおいしそうにビールを飲み、わたしは祖母が作ってくれた大好きな切り干し大根を食べて、いろいろな話をするのです。庭の木がそよそよとゆれて、しずみかけた夕日を見ながら、ゆつたりとした時間がながれていきます。

祖父から、ごはんつぶをひとつものこさず食べるから見ていて気持ちがいいなと言われたことがあります。わたしはそのことを意識しきしたことがなかったのですが、そんなささいなしぐさも見てくれることにおどろきました。

母が子どものころは祖父と祖母はとてもきびしかったそうです。母もわたしにきびしいです。ですが、そのきびしさはわたしのことを大切におもってくれているからこそだとわかっています。大切にそだてられた母から大切にそだてられているわたしはめぐまれていると思います。

長年はたらいてきた祖父には、これから自由に楽しいことをたくさんしてほしいです。

と、言いつつも、宮崎に帰省したら、ずっと家に祖父がいてくれることにじつはワクワクしていることはないしよです。

じじちゃま、わたしのじじちゃまでいてくれてありがとう。これからもずっとずっと、いっしょにいようね。テラスでごはん、また食べようね。